

新庁舎整備市民説明会を開催

15会場に625名

市長が昨年12月に表明した新庁舎整備の方針について、1月16日～2月13日にかけて市内15会場で市民説明会を開催しました。全会場で625名の参加があり、市からは市長、副市長らが出席して方針を述べるとともに新庁舎整備に対する理解を求めました。

市長は、新庁舎について旧下呂温泉病院跡地に新築整備するとともに、農林・土木部門について下呂総合庁舎を活用することを柱とする整備方針を昨年12月に表明しました。説明会では、市長、副市長が検討経緯と方針を、担当部から整備費用やスケジュール等、計画概要の説明を行いました。参加者からは旧下呂温泉病院跡地にした理由や庁舎整備の必要性のほか、振興事務所の体制等についても数多くの質問が出ました。各会場でも主な質問や意見と、それに対する市の考えを掲載します。

なお、市は方針通り新庁舎整備を進めるため、3月3日から始まる下呂市議会に市役所の位置を変更する条例の改正議案と、それに伴う基本設計、実施設計等の関連予算を上程する予定です。

総務部 総務課 ☎24・2222（内線212）

Q&A

市民説明会の中で 多くあった質問と市の考え

◆ 説明会場の参加者数

地 域	開催場所(開催日)	参加者数
萩 原	大ヶ洞公民館(1/28)	22
	あさんず会館(2/3)	75
	星雲会館(2/4)	154
小 坂	きこりセンター(1/23)	27
	湯屋地区公民館(1/26)	23
下 呂	上原公民館(2/5)	25
	竹原公民館(2/6)	44
	中原公民館(2/9)	28
	下呂市民会館(2/10)	93
金 山	菅田公民館(1/16)	22
	金山市民会館(1/20)	18
	東公民館(1/22)	12
	下原公民館(1/29)	22
馬 瀬	清流ふれあい会館(2/12)	32
	南部研修センター(2/13)	28
合 計		625

質問1

旧下呂温泉病院跡地(以下、「病院跡地」という)は下呂温泉の中心であるため、観光振興に活用したらどうですか？

【市の考え】病院跡地は、庁舎計画以前から病院跡地を取得(購入)するための基金を積んでおり、事業費を抑えることができます。また、市の中心(人口重心地)に近く、今後行政を進める上でどの地域にも効率的にサービスが提供できると考えています。

新庁舎の位置は、下呂温泉の中心であり市の観光や経済の

◆ 庁舎位置変更は特別多数議決◆

議会の議案は、通常、出席議員の過半数で議決されますが、市役所の事務所の位置を定める条例の議決は市にとって重要な案件であるため、「出席議員の3分の2以上」の議決が必要です。

質問2

病院跡地は災害に弱いと思うが、その対策はどうするのですか？

中心と言えます。市民からは市役所と商店街等をあわせる複合施設化という意見もありました。今後、新庁舎整備計画を進める中で、市民の皆さんのご意見をいただきたいと考えます。

【市の考え】病院跡地は、市の大動脈である国道41号の対岸に位置するため、近接する下呂大橋が重要になります。現在、下呂大橋は耐震補強工事を行っています。また、主要地方道



2/3 星雲会館の様子

下呂小坂線も重要な道路ですので、道路改良や防災工事を岐阜県に強く要望していきます。

また、病院跡地の取り壊しにあわせて山側の芦谷等の分流工事を行います。この工事により幸田アンダーパス（線路下の道路部分）への浸水防止等に大きな効果があります。さらに、病院跡地は、飛騨川洪水浸水想定区域でもあります。地形上、下呂市の市街地は飛騨川を中心に南北に延びているため、病院跡地だけではなく、広く飛騨川沿いは常に洪水被害のおそれがあります。今後も各関係機関との連絡を密にして水害対策を進めていきます。

質問3

農林・土木部門だけでなく、その他の部署も下呂総合庁舎に移せるのではないですか？

【市の考え】市の農林・土木部門を岐阜県の下呂総合庁舎に移すことは、岐阜県との連携を強化することを目的とした判断です。下呂総合庁舎には農林事務所と土木事務所がありますので、県と市の事業を一体的に進めることができます。

その他の部署を下呂総合庁

舎に移すことは、下呂総合庁舎の空きスペースの状況から難しいと考えます。また、農林・土木部門以外に下呂総合庁舎内の県組織とつながりの強い市の業務は少なく、移すことはかえって市の組織を分散することになるため、メリットは少ないと考えます。

質問4

新庁舎（新築）ではなく、今の庁舎を耐震補強すればよいのではないですか？

【市の考え】庁舎を一本化（農林・土木部門を除く）するには現在の市の施設（庁舎等）では必要な面積を確保できる建物もなく、また、耐震性が見込めない施設がほとんどです。そのため、新たな庁舎整備が必要となりますが、庁舎を整備する方法には、新築のほか耐震補強を含めた増改築等も考えられますが、新築を選択しました。これは、経費を安く抑えるため耐震補強等により庁舎を整備したとしても、庁舎そのものの寿命を延ばすわけではなく、近い将来、庁舎の再整備が想定されます。

将来を見越した市の負担を

考えたとき、合併特例債（借金）という市の負担が少なく済む起債が利用できるこの時期に庁舎を新築することが結果的に将来の負担を少なくする最良の方法と考えます。

質問5

新庁舎を病院跡地に整備することはすでに決定されたことなのですか？

【市の考え】新庁舎を整備し位置を病院跡地とする市の方針は、平成25年度から検討を進めてきた庁舎一本化についての市長の考えを示したものであり、決定したものではありません。市は市役所の位置を変更する条例と関連予算を今年の3月議会に提出します。今回の方針は、こうした議会の議決を得て初めて決定するものです。

なお、市役所の位置を変える場合には、議員の3分の2以上による議決が必要となります。

質問6

議会の議決が得られなかった場合は、どうするのですか？

【市の考え】3月の議会で議決



2/10 下呂市民会館の様子

が得られなかった場合、今回の病院跡地での新庁舎整備と下呂総合庁舎への農林・土木部門の移転についてはすべて白紙となります。合併特例債を利用して新庁舎を整備する計画のため、現在考える新しい庁舎を合併特例債の利用期限内（平成30年度まで）に完成させることは困難となるため、3月の議会で議決を得ないと新築整備は難しいと考えます。

この他の新庁舎整備市民説明会での意見や説明会資料は、下呂市ホームページをご覧ください。

1月12日に新聞折り込みした市民説明会開催チラシのなかで、「議会や市民の皆さんからのご意見、ご提言を踏まえて平成26年12月に整備方針をまとめ」とありましたが、議会とは現在協議中であり誤解を招く表現でしたので、お詫びして訂正いたします。